



# 代沢九条けいじばん

第40号  
2017年9月8日発行  
代沢九条の会  
(代沢2-37-5-101)

日本には、さまざまな人がいて、さまざまな考え方がある。それでも、根っこに九条をおく。

## 戦後72年目の七夕

1945年の日本への原爆投下後、ようやく核兵器を国際的に違法とする「核兵器禁止条約」が国連で初めて採択されました。被爆者たちと市民の地道な訴えが、122カ国もの賛成票を得る大きな役割を果たしたと思います。条約は「核兵器のない世界」を目指し、「核兵器の開発、実験、製造、備蓄、移譲、使用および威嚇としての使用」を禁止するものです。この条約はきたる 9月20日に各国の署名が始まり、50カ国の批准を得たところで発効されます。

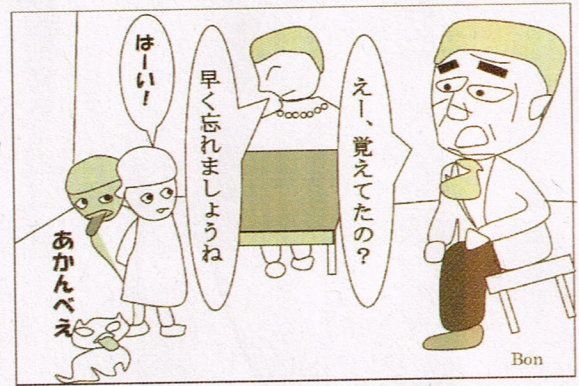
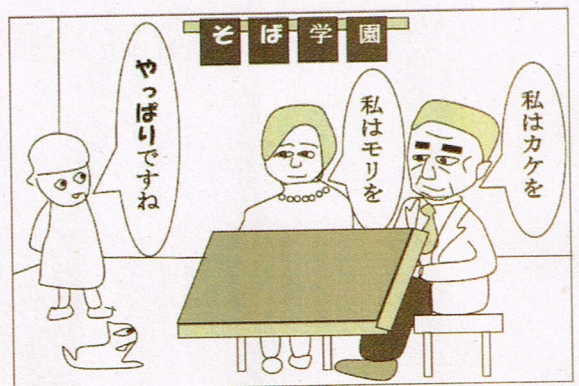
驚くことに日本政府は、交渉会議にさえ不参加でした。唯一の戦争被爆国である日本は、核の傘に依存する政策の見直しを行い、「核兵器禁止条約」への1日も早い参加を目指して欲しいと思います。

## 「共謀罪」を許さない

多くの国民の反対の声を無視し、政府は参議院の委員会採決を飛ばして6月15日、『テロ等準備罪』法案を強行採決しました。この法律は、今までの刑事司法の『犯罪を実行した段階で罪を問う』という原則をくつがえして、『二人以上で犯罪を計画し、準備を始めた(共謀)と当局が判断した段階で処罰を可能にする』法律です。懸念されることは、当局の目を恐れて国民が萎縮し、自由に意見を発表できない雰囲気を作られることです。わが国では、戦前『治安維持法』という悪法で、この怖さを味わってきています。現在でも、この治安維持法で被害を受けた人びとが闘っています。

憲法が保障している個人の自由をおびやかすような世の中を二度と作らせないために、この共謀罪は廃案にするしかありません。そのためには、私たちひとりひとりが、周りの人たちとともに粘り強く反対の声をあげ続けていきましょう。

## 忘れないでね 2人の好物



～おすすめの一冊、ぜひ～  
“丸腰”国防論  
～憲法9条の理念、今ここに！～

著者 梅村 慎二ほか(2016年)359p  
編集・発行 合田 寅彦・  
ゆう出版 0299(42)2240 (ファックス)  
[gohdatora@yahoo.co.jp](mailto:gohdatora@yahoo.co.jp)

### LOOK!

～裏面あります～  
会員の声をお伝え  
しています。

### 代沢九条の会とは？

憲法九条を守ることが大切だと考えている代沢地域に住む人たちの集まり。2006年5月に結成され、憲法九条を守る活動を行っています。『代沢九条けいじばん』を発行し、駅頭や戸別に配布しています。

### 次回例会のお知らせ

2017年10月8日(日)13:30～16:00

代沢東地区会館(代沢1-31-8) \*フリーな意見交換の場です。  
初めての方、ちょこっと興味のかたも、ぜひ。

国防とは、簡単に言えば、外敵から国を守る  
と解釈されます。この本では、一般市民が  
日頃の生活感覚に基づき、国とは何か、敵  
とは何か?を問い直し、関連資料に目を通  
し、日本を取り巻く情勢および国防に対する  
識者の考えを勉強し、“武器を持たずに  
国を守る”というユニークな戦略を提言して  
います。(Y.I)

「けいじばん」へのご意見、投稿は・・  
代沢九条の会事務局 03(3412)6097 (ファックスとも)  
URL:<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~daizawa9j/>  
email: daizawa 9j@gmail.com



## 【沖縄通信 - 防衛局は焦っている！】

2017年7月24日、沖縄県は国による無許可で違法な辺野古新基地建設工事の差し止めを求め那覇地裁に提訴し、また、判決まで工事を中断させる仮処分も申し立てました。しかしながら沖縄防衛局による辺野古キャンプシュワブへの工事車両搬入は続いています。キャンプシュワブ・ゲート前では、連日、抗議市民の座り込みが行なわれ、沖縄県警・機動隊とのごぼう抜き攻防が繰り広げられています。

キャンプシュワブ内では、K9護岸工事が進み、報道を見て諦める人も多いようです。しかしこのK9護岸工事は、「仮設工事」に過ぎず、何も知らない多くの日本人を諦めさせる工作ではありません。

当初計画のままでは、今後の基地建設の展望が開けず、ことごとく「変更申請」が必要で、それには翁長知事の承認が必要です。今、焦っているのは沖縄防衛局の方で、八方ふさがりの状態です。翁長知事の権限行使で、工事は止まります。私たちは諦めることはありません。**辺野古新基地建設阻止**。それが沖縄の民意です。（沖縄通信員：岩村利一・幸子）

## 残業に思う

最近、人手不足が深刻になり、労働者の長時間労働が体に及ぼす悪影響や残業の未払い賃金が多くなっていることなどが報道されるようになりました。

その中で、宅配労働者と学校教師の過重労働の是正については、労働者のほうから声が上がっています。

この2業種は、まえまえから話題になっていましたが、その中で宅配労働者は時間管理がわかりやすいので、解決策として再配達などを減らすことは私たちも協力できると思います。一方、学校教師は深刻です。出退勤時間が宅配労働者と違って、十分に管理されていません。過重労働解決策としては、部活の顧問やコーチ等は地域の協力が必要だと思います。現状のままでは、教師は教育委員会や、上司からの課題は多く、よって、生徒への教育への指導は、不十分な場合もあります。

この状況を打破するには、地域の人々や、他の労働組合と連携することもひとつの解決策だと思います。そして、教師の時間の実態を知るためには、職場にタイムレコーダーを導入するのも一案だと思います。現状のままでは、学校教師の労働条件の改善は難しいように思います。（松尾弘）

## 「こころの取り締まり」

20XX年。IoT (Internet of things) やAIが普及し、便利で快適な生活ができる社会になって久しい。この社会の大きな成果は犯罪がなくなったことだ。「こころの取り締まり」が万全だからだ。この時代の究極の犯罪、政権運営の在り方に異を唱える市民の心の動きが、特殊な装置を通して当局に察知されるからだ。察知されると、AIを備えた治安維持ロボットがやってきて、たちまち逮捕される。未然の取り締まりで、世の中が平和になったのだ。政権運営に反する危険な思想をもつ者は消え去り、権力装置にとっては理想的な社会だ。

「こころの取り締まり」が定着した背景に、2017年にアベ政権下で成立した「共謀罪」が大きくはたらいている。

（深田伊佐夫）

## ～私の体験した戦争を伝えます～

戦中～戦後の激動期を生きてきた人たちは、二度と戦争を起こしてはならないという思いを強く感じています。けいじぼんでは、シリーズでその方たちの体験を伝え、残していきます。

## 吉澤翁のお話(1) 嘘ニュースの始まり

戦前、海軍の指導者山本五十六は天皇の御前会議で『絶対に英米相手に戦争をすべきではありません。せいぜい初めの半年くらいしかもちません』と述べて猛反対したが、陸軍の強腰に天皇が同調して戦争が始められたと言われている。が、ハワイやマレー半島沖の戦果に酔いしれていた日本は、戦争を始めて6か月後の昭和17年6月4日に北太平洋ミッドウェイ沖で海軍が惨敗、航空母艦4隻全部と人員3600を失った。にもかかわらず当時の新聞は『わが方の損害、空母1、飛行機の未帰還35』と報じた。新聞やラジオが嘘ばかり報道するようになった最初である。『太平洋の戦局、この一戦に決す』と新聞にあると、まるで勝ち戦のようである。まさか、空母4隻を失い、当然飛行機は全滅、とは思ってもよらない。やがて、南方や北方で全滅すると『玉砕』と書き、玉が美しく砕けるように、死ぬことを美化するようになっていった。（吉澤）

## 土屋翁のお話(1) 空襲体験

昭和19(1944)年11月から東京も戦場になった。米空軍の爆撃機B29が頻繁に来襲し、昭和20年になると爆弾攻撃から焼夷弾攻撃に変えていった。木と紙の家屋が密集していた東京下町に焼夷弾を落とし、軍需生産に関わる多くの小工場を焼き、市民を無差別に焼き殺すことは、日本国民の戦意をくじくのにつながるといふ狙いが米軍にはあった。

20年3月10日には、334機のB29は20万発の焼夷弾を搭載して来襲した。隅田川と荒川の間の密集地帯が主に狙われ、多くの人が焼死、溺死、酸素欠乏による窒息死で犠牲になった。この数は広島原爆の犠牲者に匹敵する。私はその夜、代沢4丁目の高台から下町方面の凄まじい火炎の赤の空を見つめ、震えていた。（土屋）

## 日本国憲法第九条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。